

## 県外派遣報告書

審判員名	竜田 雅史	所属	U-15
大会名	令和6年度 関東高等学校男子バスケットボール選手権大会		
期間	令和6年6月1日(土)～6月2日(日)		
会場	埼玉県 深谷ビクタートル・本庄シルクドーム		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
5月30日(木)	審判会議	オンライン	
6月1日(土)	1回戦	本庄シルクドーム	
会議 講義 内容			
<p>○挨拶:埼玉県専門部 専務理事 名児耶様 関東ブロック審判長 平原様 埼玉県 審判委員長 眞榮喜様より 無事に成功出来るように協力して頂きたい。AブロックはWCの枠が決まる大事な大会である。審判部としては、A級審査も兼ねているので、強い気持ちで望んで頂きながら、多くS級もいるので、見たりコミュニケーションを取って学んでください。</p> <p>○指名審判員紹介及びレクチャー ・東京都 和嶋 陽一様より ～普段考えている事・TOとの関わり方～ 審判を始めたきっかけからお話が始まり、審判を始めたころから、ルールに精通している審判でいたいと考えていた。そのために、ルールを勉強し、メカ・プレーコーリングガイドラインを日々勉強している。 普段、TOを担当したり、講師とし色々な都道府県で講師として活動している中で、TOがどんな時に困っているかなど事例を挙げていただき(タイマーが手を上げる前に始める。Fのレポートが見えにくい。3Pが際どい時に、2Pか3Pか示してくれないなど)、それを知ることが審判として大事。また、ゲーム中、プレーヤーのためにチャレンジしていくこと。3×3や、TOなど色々していると審判に繋がること。どんな時でも目の前のことから「逃げずにやっていく」大切さをお話頂いた。</p> <p>・神奈川県 加納 康平様より ～天皇杯を担当して～ 担当した試合を皆さんが見て、どう思ったか。感じたか。受講側にも質問をしながら行った。 「相手の目の前を吹く事」がどういうことなのか。よく考えて頂きたい。つまり「クルーが目の前で判定したものを、尊重することの重要性」。ライセンスや年齢、性別に捉われずに判定することが大事であり、CCが吹いたから絶対というものではない。判定とは「個人の持ち物」というワードがとても印象に残った。常に、誰のプライマリーで、誰が責任があるのか考えて審判をして頂きたい。</p> <p>・茨城県 大野 太裕様より ～自分自身が普段取り組んでいること～ 普段の仕事をしていて、審判に通じることがある。特にコミュニケーションでは、客観的にみることができたりする。 試合中や、試合後の振り返りで大事なものは、次のゲームでどう生かせるか・改善できるか、クルーとしてどうしていけば良かったかを考えることが大事。審判をしている時は、 ①ゲームのために ②クルーのために ③最後に自分のために と考えていて、自分勝手な「我」を出してしまうと、クルーワークが崩れてしまう。CCの時は、ライセンスを気にせずチャレンジしてほしいと考えている。自分が上級になる前は、波がある審判であり、ダメな時のほとんどがメンタルに原因があったと思う。しかし、色んな経験をして、自分のことより、クルーのことを考えられるようになってから、メンタルが安定したと思う。クルーワークを大切にやって欲しい。というお話があった。</p>			

実技

担当試合	期 日	6月1日(土)	男子	女子	1回戦
	対戦カード	県立宇都宮北高等学校(栃木)	VS	県立匝瑳高等学校(千葉)	CC U1 U2
	相手審判	CC:大木裕一 氏(山梨) U2:櫻井紀豊 氏(群馬)			

ミーティング内容 主任 小澤 朋克 氏(群馬)

ゲームの序盤からコンタクトが激しく、4Qの終盤まで接戦であったこともあり、チームFが各クォーター積み試合であった。もっとFとしてコールしていいコンタクトがあったのではないかと思う一方、逆に、笛の吹き方や見せ方、時間帯など工夫があれば、プレーヤーに基準が伝わり、減らせたものもあったと思う。クルーワークとしては、仲間のプライマリーを尊重して、目の前の人、目の前の現象をコールしていて良かったと反省を頂いた。個人としては、UFかNFか微妙な時に、C2に値しないと確信があり、NFとしてコールする場面があったが、仲間を呼んだり、仲間が近づいて「クルーで決断した。」という見せ方をしても良かったのではという反省も頂いた。

全体の感想

地元の埼玉開催ということもあり、知っている方が多くいる中で、リラックスして試合に臨むことができたと思います。担当した試合では、事前にクルーで各チームの情報を共有したり、プレカンファレンスでは、メカニックやガイドラインを細かく確認して、試合に臨めました。試合では、昨年度の関東大会で反省を頂いた「ポディションアジャスト」、「テンポセットの重要性」ということを重点に意識し臨みました。クルーで協力して進められ、無事に試合を終えられたという中で、審査の結果として皆様の期待に応えることが出来ず、悔しさが残ります。一重に自分の力量不足を痛感しました。そんな中でも、結果を聞いた県内の様々な仲間や、指導員の方から身に余るお言葉をかけて頂き、「自分の強みは何か」や、「楽しそうに審判する姿」など、たくさんの次に繋がるきっかけがありました。悔しさをバネに、目の前の課題を大切に、その1試合を丁寧にレフリングできるよう、今まで以上の覚悟で望まなければならないという気持ちでいっぱいです。オンザコート、オフザコート共に努力致します。

最後になりましたが、高校男子関東大会の派遣にあたり、御配慮いただきました埼玉県バスケットボール協会の皆様や県内審判員の皆様に、深く感謝申し上げます。今後、より一層の努力をして参ります。ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。